

2023年3月期第1四半期 決算説明会 Q&A (2022年7月29日開催)

Q 1. 中国と米国の受注見通しについて教えてほしい。

A 1. アメリカについては、金利や原油価格の上昇によって、経済活動が少しずつ減速する懸念があると見ています。そのため、第2四半期以降の受注は計画を据え置いています。

中国については、コロナウイルスによるロックダウンなどのリスクが残るものの、今後も自動車の部品や金型加工、半導体製造装置向けを中心に堅調に推移すると考えています。

Q 2. ここ1年の半導体製造装置向け受注は、企業努力が実を結んだ結果なのか。

A 2. 当社の横型マシニングセンタに、新しい工具やプログラムなどの価値を付加して、加工のソリューションの提案を続けてきました。これが受注増につながっています。

Q 3. 通期の業績見直しを見直して、営業利益を11億円上方修正している。その内訳を教えてください。

A 3. 海上運賃の上昇によるマイナスの影響がありますが、想定為替レートの見直しによるプラスがあることにより、通期の営業利益を11億円上方修正しました。

Q 4. 中国のコロナウイルスによるロックダウンの影響は、売上と受注にどのような影響を与えたか。

A 4. 売上に対しては、中国への出荷が遅れる影響がありました。

受注に対しては、中国での営業活動が広範にわたっていることから、影響はありませんでした。

Q 5. サプライチェーン（部品調達）の混乱影響について教えてほしい。

A 5. 半導体や、コネクタなど電気部品関連の部品調達が困難なことで、お客様の要求納期を遵守することが難しい状況に変化はありません。

今後も厳しい状況が続くと見ていますが、生産計画に間に合うよう部材の納期管理を徹底し、お客様への納期を遅延することが無いよう努めます。

Q 6. 物流（製品出荷）の混乱状況について教えてください。

A 6. 世界的に輸送コンテナの不足が続いており、今後も製品の出荷に影響を及ぼすリスクがあると見ています。

Q 7. 金利の上昇に伴い、お客様の投資の姿勢に変化はあったか。

A 7. 第1四半期は、アメリカを含め、金利の上昇がビジネスに及ぼす影響はありませんでした。

Q 8. 為替が円安の状況は、御社にとって追い風となっているのか。

A 8. 円安によって、外貨建ての収益と費用の換算額はともに上昇します。そのうち収益に与える影響の方が大きいため、円安は当社の業績にプラスの効果があります。

本資料に記載いたしました将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。

そのため、実際の業績は、さまざまな要因により、記載された見通しと大きく異なる結果となる可能性があることをご了承ください。

実際の業績に影響を与える重要な要因には、当社の事業を取り巻く経済情勢、社会的動向、当社の提供するサービス等に対する需要動向による相対的競争力の変化等があります。なお業績に影響を与える重要な要因は、これらに限定されるものではありません。